

研究機関名：旭川医科大学

作成年月日：2024年4月10日(第1.0版)

承認番号	24008
課題名	イヌサフラン誤食コルヒチン中毒患者における血中エンドトキシン濃度の予後予測の有用性の検討
研究期間	西暦 年 月 日 (実施許可日) ～ 2025 年 3 月 31 日
研究の対象	2013年1月1日～2023年12月31日の期間に、イヌサフラン誤食によるコルヒチン中毒として当院で入院加療もしくは司法解剖を行なった方
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報 (詳細：採血データ、画像データ、性別、年齢、病歴、入院経過、治療内容等) ) <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織 (対象臓器等名： ) <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他 ( )
利用予定日	開始日 2024 年 6 月 1 日
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司
研究の意義、目的	<p>本研究は、コルヒチン中毒の患者さんの重症度や予後の予測指標として、新たな血液マーカー(血中エンドトキシン濃度)の有用性を検討するものです。</p> <p>北海道では、毎年、イヌサフランを食用山菜として誤食し、当院へ救急搬送もしくは当院で司法解剖となったコルヒチン中毒の患者さんが数例いらっしゃいます。コルヒチン中毒の診断には、血中コルヒチン濃度の測定が必須ですが、この濃度自体で重症度や予後を予測することは困難です。また、測定自体にも特殊な機材を用いるなど容易に計測する事ができません。本研究では、この代替検査として、血中エンドトキシン濃度測定が有用ではないかと検討するものとなります。</p> <p>コルヒチン中毒では、まず消化管粘膜がダメージを受け、損傷部位から血中へ消化管の細菌が入り込みます。細菌はエンドトキシンという有害物質を産生し、それが原因で重症な敗血症や多臓器不全に陥ります。したがって、血液中のエンドトキシン濃度がコルヒチン中毒患者さんの重症度や予後予測につながる重要な因子になる可能性があります。</p>
研究の方法	本研究では、2013年1月1日から2023年12月31日までにおいて、イヌサフランを食用山菜として誤食し、当院へ救急搬送、もしくは、他院より当院へ搬送されて司法解剖となったコルヒチン中毒患者さんの診療記録を用い、血中エンドトキシン濃度がコルヒチン中毒患者さんの重症度、予後に影響したかを検討するものです。あくまでも、現存の診療録から得た情報でのみで研究を行って行きます。
その他	特記すべきことはありません。

お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号 旭川医科大学 救急医学講座 研究担当者・責任者：川口 哲 電話番号：0166-68-2852 FAX：0166-68-2699</p>
---------	--